

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
①	基本的な生活習慣（「挨拶・掃除・身なり」と「早寝・早起き・朝ご飯」）、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒指導	日常的にさわやかな挨拶ができるように、朝の挨拶運動に力を入れる。	A 90%以上の生徒が挨拶できる。	生徒が自主的に挨拶をするように指導した。中間No.1	3.4	A 自分からすすんで挨拶をする。 B 時々自分から挨拶をする。 C 声をかけられれば挨拶をする。 D 挨拶をしない。	3.3	A 自分からすすんで挨拶をする。 B 時々自分から挨拶をする。 C 声をかけられれば挨拶をする。 D 挨拶をしない。	3.4	毎朝、登校時に職員による登校指導を実施した。また、生徒会執行部や部活動によるあいさつ運動を定期的実施した。	定着してきたので、次年度も続けていく。		
					B 70%以上の生徒が掃除できる。										
					C 50%以上の生徒が挨拶できる。										
					D 挨拶ができる生徒は50%未満である。										
			美化委員会	職員が模範となって清掃指導に取り組み、また、委員会による活発的な活動を促し、清掃に対する生徒の意識を高めていく。	A 90%以上の生徒が掃除ができた。	毎日の清掃指導を行った。中間No.2	3.7	A 自分からすすんで掃除をする。 B 決められたところだけは、掃除をする。 C 注意されると掃除をする。 D 掃除をしない。	2.3	A 自分からすすんで掃除をする。 B 時々自分から掃除をする。 C 言われると掃除をする。 D 掃除をしない。	2.5	A 自分からすすんで掃除をする。 B 時々自分から掃除をする。 C 言われると掃除をする。 D 掃除をしない。	3.2	全職員による清掃指導を徹底し、協働して取り組むことができた。 職員数が減り、職員一人一人の掃除区域の担当エリアが広がった。	次年度も継続して掃除の徹底を図りたい。次年度は工事がないうえ、適切な掃除区域の割り振りを検討し、校内美化に努めていく。
					B 70%以上の生徒が掃除ができた。										
					C 50%以上の生徒が掃除ができた。										
					D 掃除ができる生徒が50%未満であった。										
			生活委員会	全職員の共通理解のもと、登校指導中や朝の会、授業中など呼びかけを行い、身なりをきちんと整えるよう指導する。	A 90%以上の生徒がきちんとしている。	生徒の身なりの指導をした。中間No.3	3.6	A いつも自分できちんとしている。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	A いつも自分できちんとする。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	A いつも自分できちんとする。 B 時々注意されることがある。 C 注意されることが多い。 D 注意されても直さない。	3.5	登校指導時や朝の会、授業に行ったときなどに常に気がついたときに服装の乱れなどを指導した。	指導に従わない生徒に対する個別指導のあり方を見直し、全職員の共通理解のもと、保護者と連携して指導に当たる。
					B 70%以上の生徒がきちんとしている。										
					C 50%以上の生徒がきちんとしている。										
					D きちんとしている生徒が50%未満である。										
		保健委員会	保健日より等で早寝・早起き運動を推進することにより、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.9	A 毎日、早寝早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.7	A 毎日、早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.9	A 毎日、早起きをする。 B ほぼ毎日、早寝早起きをする。 C 早寝早起きができないことが多い。 D 早寝早起きができない。	2.9	健康観察や保健室での様子から個別に健康指導を行った。また、保健委員会の取組として睡眠時間について調べ発表した。	次年度も継続して、アンケート調査・個別指導を行う。特に睡眠については、睡眠の大切さを伝えていく。	
				B 実施生徒が70%以上であった。											
				C 実施生徒が50%以上であった。											
				D 実施生徒が50%未満であった。											
		保健委員会	保健日より等で朝ご飯運動を推進することにより、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.9	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	A 朝食を毎日食べる。 B 朝食をほぼ毎日食べる。 C 朝食を食べないことが多い。 D 朝食を全く食べない。	3.7	健康観察や保健室の来室状況、アンケートなどから生徒の状況を把握し、状況に応じて保健指導を行った。	次年度も継続して、アンケート調査・個別指導を行う。	
				B 実施生徒が70%以上であった。											
				C 実施生徒が50%以上であった。											
				D 実施生徒が50%未満であった。											
学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	生徒指導	登校指導の声かけや全職員の意識を向上させ、また、生活委員が遅刻点検をするなど、生徒会活動と連携して、継続的に指導を行う。	A 90%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	時間（遅刻をしない・チャイム席・集合時間等）を守るように指導した。中間No.5	3.8	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	A 毎日きちんと守れる。 B ほぼ毎日守れる。 C 時々守れないことがある。 D 守れない。	3.3	登校指導や始業時間の指導などを通して、職員が意識して声かけを行った。	できる限り早い時間に、より多くの職員が登校指導に参加できるようにする。		
			B 70%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。												
			C 50%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。												
			D 登校時間やチャイム席を守れた生徒が50%未満だった。												
	生活委員会・学習指導・教務委員会	各教科で宿題を出し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。	A 90%以上の生徒が宿題を行った。	家庭学習の習慣が身に付くように指導した。中間No.6	3.0	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.3	A 家庭学習を週7時間以上する。 B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。 C 家庭学習を週3時間未満する。 D 家庭学習を全くしない。	2.3	生徒の状況に応じて、適切な課題を設定し、提出させるなどして学習指導を行った。	家庭学習の意識を高め、宿題の提出率を向上させる。		
			B 70%以上の生徒が宿題を行った。												
			C 50%以上の生徒が宿題を行った。												
			D 宿題を行えた生徒が50%未満であった。												
	生活委員会	学習道具を毎日持ち帰らせ、家庭学習への意識を高めるよう指導する。	A 90%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。	学習道具は毎日持ち帰らせるとともに、忘れ物をしないように指導した。中間No.7	2.8	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をすることが多い。 D 毎日忘れ物をする。	3	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をすることが多い。 D 毎日忘れ物をする。	3.0	A 忘れ物をしない。 B 時々忘れ物をする。 C 忘れ物をすることが多い。 D 毎日忘れ物をする。	3.0	朝の会や帰りの会などで、学習道具の持ち帰り、忘れ物がないように指導した。学期末などに持ち帰りを徹底した。学習委員会による忘れ物。	家庭学習の意識を高め、学習道具の持ち帰りの必要性をたせ。		
			B 70%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。												
			C 50%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。												
			D 毎日学習道具を持ち帰った生徒が50%未満であった。												
生徒指導	全校集会・学年集会や講演会などで集団規律の指導を行う。	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。	集団としての規律（整列・私語・集合時間）やマナーが身に付くように指導した。最終No.3	3.4	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。 B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。 C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。 D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。	3.2	子どもさんは、集団としての規律やマナーが身に付いている。最終No.3	3.6	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。 B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。 C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。 D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。	3.3	全校集会や学校行事、学年集会など、様々な場面で集団規律について指導した。	姿勢や態度が悪く、雰囲気や乱す生徒に対しては、その場から出して別室にて個別指導に当たる。			
		B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。													
		C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。													
		D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。													
②	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	授業時間の確保を図る。	教務	裁量の時間等を活用し、授業時間の確保に努める。	A 授業時間が規定以上に確保できた。							時間割を工夫し、裁量時間を利用し、授業時間の確保に努めた。	来年度も学習指導要領に沿って、適切な授業時間の確保に努める。		
					B 授業時間が規定通りに確保できた。										
					C 授業時間が規定に5%未満、満たなかった。										
					D 授業時間が規定に5%以上、満たなかった。										
		基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	学力向上推進	考査前の質問教室や夏の教室などを設定し、基礎学力の向上を目指す。	A 90%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。									学力向上に向けて、国語、数学、英語の基礎的な内容の習熟に努めた。	学習規律の徹底を図り、基礎的な内容の習熟に努める。
					B 70%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。										
					C 50%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。										
					D 課題に対して向上した生徒は50%未満である。										
		「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育てること」に基づく学習指導の工夫改善（指導主事要請授業）を推進する。	教務	指導主事を要請した授業研究を行い、専門性と指導力を高める。	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に努めた。最終No.5	3.5	3.2	3.0	3.5	2.8	2.9	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。 D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。	ほとんどの教科による指導主事要請の授業研究を実施し、授業力の向上のため最大限努力した。	次年度は全教科による指導主事要請の授業研究を実施し、教師の指導力向上を図りたい。
					B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。										
					C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。										
					D 指導主事を要請した授業研究を実施した教科が50%未満だった。										
電子黒板を活用した全職員対象の授業改善校内研修会を開催する。	視聴覚・情報	全教師が電子黒板を活用した授業の開発が行えるよう研修の場を設ける。	A 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を2回以上実施した。									研究授業等で電子黒板を利用した授業を実施した。	電子黒板の利用についての研修を更に実施する。		
			B 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を1回実施した。												
			C 電子黒板を活用した校内研修を実施した。												
			D 電子黒板を活用した校内研修を実施しなかった。												
習熟の程度、個に応じたきめ細かな学習指導の工夫改善を図る。	少人数指導等推進	習熟度の状況把握に努め、それに応じたクラス編成を行い、適切な学習指導をする。	A 年に3回以上グループ編成やクラス編成を行った。									教科の単元に応じて、TT授業を実施し、生徒に個に応じた指導を行った。	基礎学力が定着していない生徒が多く、すべての生徒に十分な指導ができるよう、さらに指導の工夫をしていく。		
			B 年に2回グループ編成やクラス編成を行った。												
			C 年に1回グループ編成やクラス編成を行った。												
			D グループ編成やクラス編成を行うに至らなかった。												

基礎・基本

上段・・・達成度

下段・・・重要度

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点											
③	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を克服する特別支援教育の充実を図る。	生徒一人一人の発達段階や特性等を生かした生活指導及び学習指導を行う。	特別支援教育	特別に支援を必要とする生徒を把握し、個別の年間指導計画を作成する。	A 特別に支援が必要な生徒の実態を把握し、個別の年間指導計画の作成を行い、計画に沿って指導が行えた。							特別に支援が必要な生徒に対して個別の支援計画を作成し、指導を行った。	様々な支援の方法を関係機関と連携をとりながら実施していく。											
		将来の就労に向けて、好ましい人間関係を自らつくることのできるような学級集団づくりを行い、協調性と思いやりの心を育てる。		調理実習や奉仕活動、体験活動を通じて協調性や思いやりの心を育てる。	B 特別に支援が必要な生徒の実態を把握し、個別の年間指導計画の作成ができた。							A 学期に2回程度実施できた。	実習や校外活動、体験活動を実施し、コミュニケーション能力や社会性を身につけさせることができた。	本年度は改修工事の為、調理室をあまり使うことが出来ず、実施回数が減ったが、次年度はもっと実施していく。										
		集団参加の力と社会性を育て、共に育ち合う交流活動を推進する。		交流学級での活動に積極的に参加していく。	C 特別に支援が必要な生徒の実態が把握できた。							B 学期に1回実施できた。	学校行事や学年の取組において、積極的に交流学級の活動に参加することができた。	本年度の取組を継続していく。										
		家庭や関係機関との連携を図るとともに、将来の希望や具体的な目標を持つように適切な進路指導を行う。		卒業後の進路保障を確実にする。	D 特別に支援が必要な生徒の実態が不十分であった。							C 年間1回実施できた。	本人、保護者とも十分に話し合い、生徒の希望する進路を保障することができた。	次年度も保護者との連携を密にして、進路指導を行う。										
					A 実施できなかった							D 実施できなかった												
					A 全生徒が、交流学級での活動を行った。							A 全生徒が、交流学級での活動を行った。												
					B 半数以上の生徒が、交流学級での活動を行った。							B 半数以上の生徒が、交流学級での活動を行った。												
					C 1人の生徒が交流学級での活動を行った。							C 1人の生徒が交流学級での活動を行った。												
					D 1人も交流学級で活動することができなかった。							D 1人も交流学級で活動することができなかった。												
					A 卒業生全ての進路保障することができた。							A 卒業生全ての進路保障することができた。												
					B 半数以上の卒業生の進路報償をすることができた。							B 半数以上の卒業生の進路報償をすることができた。												
					C 半数未満の卒業生の進路保障をすることができた。							C 半数未満の卒業生の進路保障をすることができた。												
		D 1人も進路保障をすることができなかった。	D 1人も進路保障をすることができなかった。																					
④	学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	学校図書館の常時開館を目指す。	図書館教育	ブックヘルパーを活用し、常時開館できる体制をととのえる。	A 毎日開館することができた。	学校は、読書の習慣が身に付くように指導した。中間No.8	3.3		2.6		2.8	ブックヘルパーの協力もあり、常時開館を実施し、生徒の読書活動の推進を進めた。	次年度も継続して、取り組んでいく。											
		図書を読みやすく居心地のよい学校図書館の環境を整備する。		本の配置図を掲示したり、新着図書の紹介をしたりして、生徒が利用しやすい環境をつくる。	B 週3回開館することができた。							B 1ヶ月に一冊程度本を読む。	ブックヘルパーや図書担当教員、委員会を中心に、生徒が利用しやすい明るい図書館になるよう環境づくりを行った。	図書委員会をもっと活用し、充実を図る。										
		図書について、生徒への情報提供や相談活動を行う。		ブックヘルパーによるレファレンスサービスの充実を図る。	C 週2回開館することができた。							C 3ヶ月一冊程度本を読む。	掲示板や図書館日より等を利用して、学習に役立つ内容を紹介したり、図書館の利用を勧めたりすることができた。	今後も取組を継続していく。										
		学校図書館を活用した授業を推進する。		学校図書館を利用した授業の実施に努めるとともに、読書習慣の形成を図る。	D 週1回開館することができた。							D 本を読まない。	教科によって授業で調べ学習を実施したり、読書習慣の向上などの取組を行ったりした。	図書館の利用の呼びかけをしていく。										
		朝の10分間読書の在り方を見直し、一層の推進を図る。		全校一斉の朝の10分間読書に取り組み、生徒の読書習慣の定着を図る。	A 掲示物や新着図書の紹介を随時更新することができた。																			
					B 掲示物や新着図書の紹介の更新を月1回以上することができた。																			
					C 掲示物や新着図書の紹介の更新を学期に1回することができた。																			
					D 掲示物や新着図書の紹介を行うことができなかった。																			
					A 授業と連携して蔵書の充実を図り、図書館便りを発行し、生徒へのレファレンスサービスを随時実施した。																			
					B 授業との連携を意識して、蔵書の充実を図り、生徒へのレファレンスサービスを随時実施することができた。																			
					C 生徒へのレファレンスサービスを実施することができた。																			
					D 生徒へのレファレンスサービスを実施することができなかった。																			
		A 学期に2回以上図書館を利用した授業を実施した。																						
		B 学期に1回図書館を利用した授業を実施した。																						
		C 図書館を利用した授業を実施した。																						
		D 図書館を利用した授業を実施することができなかった。																						
		A 90%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。																						
		B 70%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。																						
		C 50%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。																						
		D 朝読書を真面目に取り組んだ生徒が50%未満だった。																						
⑤	豊かな体験を通して、一人一人の内面に根ざした道徳性を養う道徳教育を推進する。	道徳の時間を確保する。	道徳教育	年間指導計画に基づき実践し、生徒の実態に応じた道徳資料を準備するなど指導方法の工夫改善を行う。	A 重点目標に力点を置いて計画した全ての項目が実施でき	思いやりの心が育つように指導した。最終No.2	3.5		3.3		3.4	道徳の時間を確保し、生徒の実態に応じて資料を準備し、実施するよう努力した。	年間計画に基づいて、より適切な授業を行っていく。											
		全職員対象の道徳校内研修会を開催する。		道徳教育	全教師が道徳の基本方針を踏まえ、共通理解が図られるよう研修の場を設ける。							B 重点目標に力点を置いて計画した項目が概ね実施でき	子どもさんは、思いやりの心が身についている。最終No.2	3.7				命の大切さや人に対する思いやりを生徒に伝えるために校内研修会を実施し、職員の意識向上に努めた。	その時々タイムリーな教材を準備する。					
												C 重点目標に力点を置いて計画した項目の実施状況がやや不十分であった。												
												D 重点目標に力点を置いて計画した項目の実施状況が不十分であった。												
					A 指導主事を要請し、道徳校内研修を年間1回実施した。																			
				B 授業研究を伴った、道徳校内研修を年1回実施した。																				
				C 道徳校内研修を実施した。																				
				D 道徳校内研修を実施しなかった。																				

平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点			
⑥	学校、生徒、地域の実態等をもとに創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、生徒と教師ともに本物の感動を体験できる教育活動の創造・実践に努める。	体験的な活動・奉仕活動・学校行事等の充実を図るため、総合的な学習の時間を活用した取組を行う。	文化的行事・体育的行事 総合的な学習	単元計画に則り、各学習活動を計画的継続的にを行い、指導の工夫改善に努める。	A 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施し、指導の工夫・改善に努めた。							総合的な学習の時間などで、充実した取組がさらにできるよう努める。	与えられた時間の中で、充実した取組がさらにできるよう努める。			
					B 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施した。											
					C 調べ学習などの体験学習を計画的に実施した。											
					D 調べ学習などの体験学習を計画的に実施できなかった。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <体育大会>	A 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習計画の立案と実施を行った。										体育大会では、3学年を中心に、積極的に活動に参加し、行事の成功に努めた。	遅刻、見学がないよう授業からきちんと指導していく。ダンス計画を一学期から見直しをもって行っていく。
					B 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習を行った。											
					C 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、練習を行った。											
					D 生徒が主体的にダンス・組体操の練習を行った。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <文化祭>	A 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習計画の立案と実施を行った。										文化祭では、特に合唱コンクールの取組において各学級で主体的に練習を行い、協力することができた。	充実した文化祭となるように、本年度の取組を継続する。
					B 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習を行った。											
					C 生徒が主体的に合唱の取組を行い、皆が協力して練習を行った。											
					D 生徒が主体的に合唱の取組を行った。											
			保護者の方々と連携したクラスマッチ、百人一首大会等の取組を計画、実施する。	A 保護者の方々と連携した行事を年5回以上行った。										クラスマッチでの豚汁づくりを保護者にお願しいし、温かい支援を受けることができた。	次年度も、より一層の充実を図っていく。	
				B 保護者の方々と連携した行事を年4回行った。												
				C 保護者の方々と連携した行事を年3回行った。												
				D 保護者の方々と連携した行事を年2回行った。												
			キャリアアドバイザー活用事業、講師を招聘しての国際理解教育等を通じて生徒に充実した体験をさせる。	A 年間6回以上の体験活動を実施した。										技の達人講演会等、講演会を実施し、生徒が心に残る体験活動を実施することができた。	機会を大切に、より多くの体験活動を実施する。	
				B 年間3回以上の体験活動を実施した。												
				C 年間1回の体験活動を実施した。												
				D 体験活動を実施することができなかった。												
			3UP事業（体力UP・スキルUP・人間力UP）として、部活動の活性化と充実を図るため、指導者を定期的に招聘する。	A 年間5回以上、指導者を招聘して取り組みを実施した。										生徒の技術力向上のために、講師を召還し、研究授業や研修を行うなどして、質の高い指導を行うことができた。	本年度の取組を継続し、来年度も継続していく。	
				B 年間4回、指導者を招聘して取り組みを実施した。												
				C 年間3回、指導者を招聘して取り組みを実施した。												
				D 指導者を招聘して取り組みを実施できなかった。												
⑦	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進する。	学級会活動の時間の充実を図る。	特別活動	A 学級会活動に90%以上の生徒が積極的に参加した。								学級毎に生徒の実態に応じた活動を計画し、積極的に参加させることができた。	時間の確保。特に学校行事に向けた学習を行っていく。			
				B 学級会活動に70%以上の生徒が積極的に参加した。												
				C 学級会活動に50%以上の生徒が積極的に参加した。												
				D 学級会活動に50%未満の生徒が積極的に参加しなかった。												
			生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）の充実を図る。	生徒会	A 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に80%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。	生徒に生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持たせ、積極的に参加するよう指導した。最終No.6		3.2	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持ち、協力している。最終No.5	2.8	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.8	生徒会だよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を啓発した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった	「人生一冊プロジェクト」が3年目を終えた。来年の取組については検討しなければならない。		
					B 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に60%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。											
					C 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に40%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。											
					D 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）の呼びかけに応じた生徒が40%未満であった。											
			キャリア教育（勤労観・職業観）の視点に立った進路指導の充実を図る。	特別活動	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を努めた。									職業調べや高校調べ、高校体験入学や出前授業などを計画的に実施した。	進路学習を積極的に行い、進路実現に向けた意識を高めさせる。	
					B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施した。											
					C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。											
					D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。											
		集団としての目標を共有し、自他や学校のよさに気付く集団活動の充実を図る。	総合的な学習	A 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行い全職員の研修を年1回以上実施した。									集団活動による取組を各学年で設定し、集団としての規律や協働の喜びを実感させることができた。	行事との関連で、まとまる意識を向上させる取組をもっと行っていく。		
				B 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。												
				C 特活において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。												
				D 集団の教育力に着目した取り組みができなかった。												



平成25年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点					
⑪	生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育（学校保健・学校安全・食育）を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。 B 若松消防署と連携した避難訓練を年間1回実施した。 C 年1回の避難訓練を実施した。 D 避難訓練を実施しなかった。							防災訓練や不審者対応の避難訓練を実施し、啓発に努めた。						
		救急救命講習を開催する。	保健指導	救急救命講習を開催する。	A 職員・生徒向けの救急救命講習会を年間2回実施した。 B 生徒向けの救急救命講習会を年間1回実施した。 C 救急救命に関する学習を資料を使って行った。 D 救急救命講習会を実施できなかった。							2学年を対象に講師を招いての救急救命講習会を開催することができた。	次年度も当該学年を対象に継続して取り組んでいく。					
		熱中症予防、性に関する指導の充実を図る。	保健指導	各学年の実態に応じた「性に関する指導」と「熱中症予防講演会」を実施する。	A 全学年で実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D アンケートのみ実施した。							全学年で「性に関する指導」を実施し、1学年で、講師を招いての「熱中症に関する講話」を開催することができた。	次年度も当該学年を対象に継続して取り組んでいく。					
		若松署と連携した「薬物乱用防止教室」「青少年を暴力団から守る教室」等を実施する。	生徒指導	「薬物等乱用防止教室」と「暴追教室」「インターネットによるいじめ防止教室」を実施する。	A 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴追教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施し、事後指導を行う。 B 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴追教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施する。 C 年間に1回はどれかの教室を実施する。 D どれも実施できなかった。							講師を招いて「青少年を暴力団から守る教育」を実施し、全学年を対象に「ネットによる誹謗中傷・いじめ等防止講演会」を開催した。	来年度は、規範意識の育成として、「性の逸脱行動防止」講演会を全校生徒と保護者を対象にして実施する。					
		食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食・食育推進	食育便りを発行することにより、「食」の大切さを意識づける。	A 年3回以上発行した。									食育だよりを毎月配布し、食の大切さを理解させることができた。	各教室に食育だよりを掲示し、さらに食の大切さを意識させる。			
					B 年2回発行した。													
					C 年1回発行した。													
					D 発行しなかった。													
			給食・委員会	牛乳パックの減量化と残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。										厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	各クラスの厚生委員にも積極的に配膳室にて活動をさせる。		
					B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。 C どちらかは概ね減量化された。 D どちらも減量化に至らなかった。													
		給食・委員会	給食で使用されている食材の情報を放送で実施する。	A 毎日、放送により食材情報の提供を実施した。										厚生委員会を中心に、当日の給食の食材情報を放送により広報することができた。	その日の給食の片付け方も含めて、放送させていく。			
				B 週2回以上、放送により食材情報の提供を実施した。 C 週1回、放送により食材情報の提供を実施した。 D 食材情報の提供を実施することができなかった。														
				A 全学年でスポーツテストを実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D スポーツテストを実施することができなかった。											全学年でスポーツテストを実施し、生徒は活発に参加することができた。	スポーツテストの結果を参考にし、種目ごとに準備内容を工夫し、体力の向上を図る。		
		⑫	学校のよさや特色を積極的な情報発信と学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの一層の充実を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開した。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取り組んでいく。			
							B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。											
							C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。											
							D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。											
A 学校運営説明会・報告会を実施し、結果を公表した。																計画通り、学校運営説明会・報告会を実施した。	次年度も継続して取り組んでいく。	
B 学校運営説明会・報告会を実施した。 C 学校運営説明会を実施した。 D 学校運営説明会・報告会を実施しなかった。																		
各教科の授業公開を推進する。	教務			常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	A 毎月1回以上実施した。									年間を通して、常時学校開放を行い、ほとんどの教科による研究授業を公開した。	次年度も常時、学校を開放し、研究授業を積極的にやっていく。			
					B 年間6回以上実施した。 C 年間3回以上実施した。 D 年間2回以下だった。	授業公開を行うなど開かれた学校づくりに協力した。最終No.9	3.6											
					A 週1回更新した。 B 月に2回更新した。 C 月に1回更新した。 D 更新しなかった。											ICTサポーターや情報教育担当を中心に、随時学校HPの更新をおこなった。	来年度はさらに更新回数を増やしていく。	
					A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。 C 月に1回以上、保護者に配布した。 D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。	学校は、通信やホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	3.5									校長通信（ジャガイモ）や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校の様子が分かる。最終No.8	校長通信・学年通信・学級通信を定期的に発行し、広く保護者への情報提供を行った。	本年度の取組を継続し、一層の充実を図る。

後期保護者アンケートの評価は、上段は達成度下段は重要度を表す。